

とよおか金馬寄席



第745号
発行人 ● 豊丘村公民館
館長 市澤和宏
編集人 ● 長野県下伊那郡
豊丘村公民館報
編集委員会
0265-35-9066
印刷所 ● 龍共印刷株式会社

私たちの村
(3月1日現在 ※外国人を含む)
男 3,306人
女 3,315人
総人口 6,621人
世帯数 2,235戸

2月25日

3年ぶり開催 笑いの渦戻石

令和五年二月二十五日、ゆめあて大ホールで三年ぶりとなる「とよおか金馬寄席」が開催されました。前売り券は完売となる大盛況で、会場に訪れた多くの観客が、直に観る本物の演芸に酔いしれました。会場では、五代目金馬襲名の記念グッズも販売されるなど、正に襲名披露に相応しい盛り上がりとなりました。

とよおか文化
事業に寄せて
実行委員長
壬生 一(小園)

令和元年九月に開催した金時師匠以来、新型コロナウイルス感染拡大防止の為見送って来ましたが、漸く終息の兆しが見え、この度の開催に至りました。先ず当日、お忙しい中、ゆめあてまでお運び頂いた約二百人の皆さまに、スタッフ一同改め

て感謝いたします。今回特に高校生らしき若い女性が若干名ご来場頂いた事も大変嬉しく思いました。今後もこの催しの裾野が益々広がってくれる事を期待したいと思います。

また数年にわたって豊丘村ふるさと大使として、本事業の目的でもある「中央の文化、芸能を地方でも」をモットーに縁を繋いで下さいました、柿外土の丸山克俊先生が令和二年一月お亡くなりになりました。誠に残念な事でありました。先生のご功績に感謝いたすと共に改めてご冥福をお祈り申し上げます。

さて今回は令和二年九月、お父さまである四代目三遊亭金馬師匠からの「五代目三遊亭金馬襲名披露公演」と銘打っての開催でした。開会の下平村長の挨拶の後、襲名の記念品として、



飯田地方名産の水引き工芸品家紋を型取った飾り額を贈呈、師匠も大層気に入って下さり安堵でした。続いて公演入り、先ず二ツ目入船亭扇太さん、次に三遊亭ときん師匠の嘶、そして前半最後は三遊亭金馬師匠、ここでも中入り。十五分程の休憩に合わせて会場内の換気を行い中入り後へ、三味線と踊りの立花家橋之助師匠、そしてトリは金馬師匠馬襲名披露公演でした。

この数年コロナによって息を張りつめた生活が続きました。マスクをしていないと揉めた悲しいニュースもありました。しかしそんな中でも私たちは、それぞれが自分の気持ちを癒し保つことを楽しみました。それは「お家時間を楽しむ」こととされ、断捨離やキャンプ、料理などを楽しむ人々が増えてきましたね。意外と楽しく今日まで続いているようになったものもあるのではないのでしょうか。

さていよいよコロナの「感染症法上の位置付け」が下がり、季節性インフルエンザと同じ五類になるようです。生活が元へ戻りつつある一方で自分の気持ちがついていけない方もおられるのではないのでしょうか。特に、罹患されたり家族を看病された方々は深い思いをお持ちでしょう。

この三年間で体験したことは様々であるから、コロナに対しての考えも人様々でしょう。三年前とは違い、やさしさを持って変化していきたい。

共にあの時期を乗り越えた仲間として仲良くやっていけたらなあと願うばかりです。

(小池淳子)

長野県公民館活動アワード2022

豊丘村公民館

「SDGs推進活動」受賞

豊丘村公民館では、令和三年SDGs取組宣言を行い二年間活動を続けて参りました。本年一月二十五日に長野県公民館活動アワード2022の受賞団体の発表があり、豊丘村公民館のこの活動が評価され、受賞いたしました。

公民館長 市澤和宏

全国で公民館の数が出揃って一番多い長野県。この

中から三団体が受賞となり、その内の一団体として豊丘村公民館が受賞の栄誉にあずかることになりました。二月十一日の表彰式は、前日の近年まれに見る「上雪かみゆき」のために交通インフラが寸断されてしまい、天気には勝てず残念でしたが中止となつてしまいました。三月六日長野県生涯学習センター原所長、長野県教育委員会事務局文化財・生涯学習課楠様

お二人が遠路、表彰のためご来館いただき受賞いたしました。受賞の評価活動内容は「SDGs推進活動」。他の受賞団体とは異なり大人から学校の生徒にいたる地域住民に対してSDGsを知っていただくための啓発活動・勉強会・学習会・広報活動という、地味ながら極々基本的な、いわゆるソフト面が受賞理由となりました。昨年夏過ぎから国立教育政策研究所社会教育



目標17パートナーシップで目標を達成しよう

SDGsって何(21)

公民館長 市澤和宏

さて先月からのつづきです。国力の差を少しでも解消するための地球規模の国家間でのパートナーシップをお話ししました。一方民間レベルではESG投資という考え方が浸透してきています。SDGsに対する企業の責任は環境（Environment）・社会（Society）・統治（公正な取引、危機管理など）（Governance）です。これに合致しない企業は投資の対象から除外するという考え方です。近年こ

のつながりを大切にし、できることを考えながら取り組みたいと思います。要は助け合いの気持ちを大切にするのが大切なのです。この目標17に対して私たちにできることは何かを考えてみましょう。

①フェアトレード（公正な貿易）商品を作るべく買う
②預金している銀行がどんな融資をしているのか関心を持つ
③商品の生産者に思いを馳せてみる
④可能な限り寄付を行う

（参考文献「数字でわかる！SDGs」株式会社カンセン「国谷祐子と考えるSDGsがわかる本」ぶんけい）

税についての作文 入賞作品
豊丘村租税教育推進協議会長賞

中学校は税金の塊！
豊丘中学校三年 壬生蒼衣さん

「あー、またお金を使うことになったな。これは、中学校のある先生の言葉です。中学校の建物や備品を修理しなければいけなくなった時に言ってい

ました。私はこの言葉を聞いた時、「先生はなぜそんな事を言っているのかなあ」と不思議に思いました。修理するお金を、その先生が出すわけではないのに、お金を使うことになってしまふとはどういう事なのか、自分なりに考えてみました。

中学校の建物や備品を修理するお金はどこから出されているのかを調べると、村の税金だということが分かりました。その先生は、村の税金を無駄にしないように、建物や備品を大切にしないとけないという事を伝えたかったのだなと思いました。

更に詳しく調べてみると、中学校の校舎も体育館もプールも税金で建てられていました。また学習に使っている教科書も税金で購入された物です。母に聞くと、高校生の兄の教科書代は数万円はするそうです。私達は小学校と中学校九年間の間は、教科書を無償で配布してもらってました。私達には教育費として、一年間に一人あたり約百万円の間、一人あたり約百万円の税金が使用されています。私はこれらの事を知り、多くの税金が小・中学校の生徒のために使われていることに驚きました。それと同時に、自分達のために税金が使われているという事を意識して勉強に励んでいきたいと思いました。

私は吹奏楽部で、クラリネットを担当しています。学校の楽器を使っています。自分の楽器が欲しくなり、楽器屋さんに行ってみました。すると、クラリネット一台が三十万円ほどしました。それほど高額な楽器を何十台も税金を使い用意してくれてあることにありがたみを感じました。また、コロナウィルスが

「人生会議をしてみませんか？」
～令和4年度健康と福祉の集い～

新型コロナウイルス感染蔓延防止のためこの三年ほどの間、村のCATV放送で行われていた健康と福祉の集いが、二月十六日にゆめあるで開催され「人生会議」について飯田医師会理事の後藤暁先生（高森町）からご講演を頂きました。

私たちは、日ごろ生きていることの素晴らしさや健康のありがたさは口にしてい

分の希望を選んでみました。選んだカードが各々違っていることから希望や考え方の違いに気が付き、自分の希望を身近な人に伝えておくことの大切さを感じました。時間の経過とともに変わっていく自分の気持ちを伝えていくことも必要のことでした。人生百年の時代、生き方を考えるためにも身近な地域で「人生会

議」を開いてみてはいかがでしょう。

（健康福祉課 保健師 壬生照子）



シリーズ「元氣な高齢者」100
粘り強く推進 礎築いた村環境の近代化

鹿角継夫さん
八十九歳
下市場在住



昭和九年に現在地において農業を営む両親のもとで八人きょうだい（男一女七）の長男として生まれた。女ばかり五人が続いたあと六番目に待望の男の子として継夫さんが生まれたので大切に育てられた。父親は若い頃から病弱で継夫さんが小学校高学年の頃からあまり働けず自宅で療養することが多かった。そのため継夫さんは当時から家の手伝いをするのが普通であつたし、七人姉妹はみな医療関係の仕事に就いた。特に五番目の姉は九十一歳になる今も現役で働いている。

校へ進んだが、ちょうど学制改革の時期に当たり下農へは六年間通った。四番目の姉が働いて上級校への進学を補助してくれた。下農を卒業後、家に留まり農業をしつつ冬季には建設関係の仕事をするという生活を二年間ほどしていたが、三六災により状況が一変した。建設関係の仕事が縁で役場から声がかかり復興関係の仕事を手伝って欲しいと要望され役場へ勤めることになった。

土木及び建設関係の仕事を担当し、①当時喬木までの開通予定であった広域農道の延伸事業を始めとした村の幹線道路の建設、②下水道整備事業を中心に懸命に働いた。①に関して下伊那の他町村はほとんどを外部に一括委託という中、豊丘だけが予算の有効活用として、測量から設計までを自ら対処する方式で臨んだ。県への申請の為、部署

の設計を寝る間を惜しんで二日間であつたこともあった。②では尿処理に関して当時くみ取り方式が主流であり、下水道という概念がほとんどなかった時代の中で、将来を見越して今から本腰を入れて検討すべきとの熱意で臨んだ。村の全体予算の三倍にも上る計画を纏めたが、回りからは見向きもされない中、孤軍奮闘し粘り強く推し進めた。首長、議会対応更には県への陳情等も自ら主導し大変苦労した。全体予算の10%を村が負担し残りは補助金と起債で賄うという手法で計画は承認を得た。今から顧みるとかなり強引な手段もあつたかなと思うが、それだけ必死でかつ熱意の賜であつたと理解している。下水処理を事業化したのは、下伊那地区では豊丘が最初の自治体となり各自自治体の取り組みの指標ができたと思っている。事業がほぼ軌道に乗り始め

たのを見計らって退職したが、都合三十一年の長きに亘って役場に勤め、村の近代化の礎構築に貢献した。役場を退職後は当時から縁があつた建設会社に就職し役場での経験を活かし、関連会社の役職を始め営業職として働いた。時には四国までの片道約七百里を日帰り出張したこともあつた。営業は数字との戦いのため常に頭を働かせたことが、今でも元気を保っている源かなと思っている。会社は三十年勤め米寿を期に退職した。

二十七歳の時、仕事の繋がりで四歳下で大鹿出身のひで子さんと結婚した。ひで子さんは継夫さんが仕事でほとんど不在であつたため、慣れない農業をしつつ、両親の介護に追われることが多かった。そんな状況で心労がかさみ七年前に亡くなつてしまつた。仕事が多忙であつたため家庭を顧みる余裕が無く、家族に苦勞をかけたなと思っている。

アルコールに関しては、仕事柄飲む機会が多かつたが、体質的に弱く量は付き合ひ程度であつた。テレビはニュースが主体で、あと

は好きな相撲を見る程度だ。公務では、村の水道審議委員を十年、区関係で社会委員を六年、監査を四年務めたのが主であつた。

趣味は仕事に関連しての旅行が唯一で、海外は中国、韓国、台湾、グアム、サイパン等で、国内はほとんどの地域を歩いた。若い頃はバレーボールに熱を入れたこともあり職場の仲間と練習し、試合にも臨んだ。

健康面では聴力、視力、脚力とも問題なく三年前に泌尿器科の手術をしたことがある程度で、最近風邪を引いた覚えも無い。今でも月に四・五日は頼まれて会社の仕事を手伝うことがあるが、その風采からとても九十歳近い人とは思われず驚く人が多い。

現在田んぼを所有しているものの米作り過程の多くを農協に委任している。車を今でも運転しているが、世の中の動向を見るにつけて最近より一層注意している。長男との2人暮らしで、家の回りにある畑で自家用野菜を作り、時々訪ねてくれる孫や曾孫と会つたのを楽しみに過ごしている。

文責：桐崎長一

こちら資料館 絵本になったお地蔵様

写真は「子だからじぞう」という絵本です。今、静かなブームになっていると聞きました。

実はこの本に登場するお地蔵様のモデルは田村に実在する「市場地蔵」です。また、作者の本田好さんは現在長野市にお住まいですが、生まれは田村のこのお地蔵様が立っている家だといわれています。この絵本は豊丘との縁が大変深いということが分かります。

さて、「市場地蔵」については「豊丘村誌」の伝説

の章で、次のように紹介されています。

『大昔のことです。日照りが続いてそのころの井戸という井戸の水はみんな涸れてしまいましたが、この井戸だけは少しも変わらず豊かに水が湧いていました。それで田村市場の人たちはこの水を汲んで助かりましたお札に、この井戸のそばに石のお地蔵様を刻んでお祀りすることになりました。』

この井戸は埋めてしまつて今はあとかたがありませんが、お地蔵様は桑畑の土手の上に立っています。『子だからじぞう』の記述は見たことありませんが、作者の本田さんは絵本の「あとかき」で、村誌の伝説と父母から聞かされたお話を一緒にして創作したことをうけ明けています。

この絵本は豊丘村図書館にも勿論あります。是非



非ご一読ください。また、お地蔵様も田村信号から道なりに50m程上った左土手奥に一人静かに立っています。

(資料館主任 唐澤武彦)

さて宴会ですが、私も今年で参加しました。

(豊丘村民話集・第貳集(昭和五十二年)より) 文責：壬生雅穂

『史書を旅する』 読売新聞文化部(編) 中央公論新社 歴史書を手掛かりに訪れた、ゆかりの地を紹介しています。例えば、『日本書紀』では磐墓古墳や飛鳥寺、『信長公記』では設楽原古戦場など。識者によるコラムも興味深く、浪漫が広がります。

時間 午後八時～九時

落拠点施設

七日(金) 壬生沢福島集

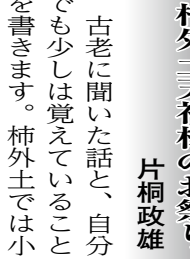
△本の紹介△

△史書を旅する△

読売新聞文化部(編)

中央公論新社

歴史書を手掛かりに訪れた、ゆかりの地を紹介しています。



『豊丘村民話集』より

現在、会所の前庭に神社の社殿があります。六尺四角くらいの石積みで、高さ三尺くらいのところに安置してありまして、社の前南側に梅の古木があり、赤い花をつけてとてもきれいで、ぐつと飲むと「こりやまたえらいえらいこた。えらくば次に廻しましよ。次は誰々さん」と皆で言ってお酒を飲んだ。酒の飲みめ人は重箱の芋の煮しめでも食べて「芋食いなんぞは、どでこんす」などとうたつたものです。

一年や二年の子供はお酒を飲まされて家へ帰ることができぬようになり、私も家から迎えに来て連れられて帰りました。大失敗でした。

さて祭りですが、三月下旬ごろで余り祭日は決まっていないうでした。祭りに参加するのは小学生男女全部でした。当日、神主さんを頼んで祭りを行ったのです。神主さんはこの村の現在の神主さん片桐武一さんのお父様でした。祭りの式が終わると昔の暗いような会所で宴会を開いたので。子供ばかりでお酒を買って来て、各自、肴を持参して盛大な宴会が行われました。わたしも一年生で参加しました。

さて宴会ですが、私も今年で参加しました。

(豊丘村民話集・第貳集(昭和五十二年)より) 文責：壬生雅穂

囲碁ボール 初体験

二月十九日にゆめあつてで冬季レク大会が開催されました。今回の競技は囲碁ボールということで、自分にとっては初めての囲碁ボール体験となりました。



まず難しいのが、ボールのコントロールです。強く打つと穴をすっ飛ばしてアウトになり、弱く打つと穴まで届きません。ボールを並べようとしても、狙った穴に入ることはほぼありません。更には、対戦相手も同じようにボールを並べようとするので、良い位置にあった自チームのボールが相手チームのボールに押し出されて三個並びを阻止されたり、たまに相手チームの打ったボールで自チームのボールが良い位置に押し出されたり(ラッキー!)と、思った通りにはなりません。

それでも、体力・筋力関係なく、ボールが打てれば誰でも楽しめる競技としてとても面白いと思いました。

(公民館主事 菅沼智子)



寒明けの空澄み渡り鳥の声 陽光に煌めく川面春立つ日 白妙に田型あらはる雪解かな 初電話テレビ出演見て欲しと 佗助の奮闘光競ふ天竜川 大皿の出番を待つや節分会 伊那谷の白き吐息を手に包む 地上熱吸ひ上げられて星冴ゆる 寒晴れや山火事注意の立看板 料硝や時計造りの頑固遊く

俳句 短歌

片桐 洋子
森田 恵子
木下 真水
松岡 照子
宮下 純子
林 恵美子
丸山 時子
矢島千勢子
池田 美和
吉川 明子

白梅と笙の音の中上ぐ拳式 日記には未来予想や初明り 一の矢の的に吸はるる弓始

〈とよおか短歌会〉

柚子三つ湯船に浮かべ孫三人冬至の夜は湯の香漂う 数十本とり残されし大根は太く大きく冬陽に立てり 年賀状少なくなれど添え書きの言葉うれしく心して読む 「オイわしら定年はいつ?」と夫の問い「死ぬまで現役」勤しむ柿園

秋深み倅の作る「ひとめばれ」湯気立ち上り盆に生酒 福澤 郁文

鰯雲茜に染まりゆく峡のいつしか民話の世界に誘う 毛涯百合子

南風はこぶ葉子やの句いは「ヘンデルとグレーテル」の世界に誘ってくれる 大原真由美

兵ならば空・海よりも戦車兵と決めてた幼日レオバルト2 福澤 亀人

柳

〈豊丘村川柳クラブ豊柳会〉

▼課題「立」 久保ひろし 選

立ち聞いてトルコ報道大地震 安田 喜子

岐路に立つその日まで先ずがんばろう 原 美風

波風の立たぬ暮らしにある笑顔 西元 峯子

軸吟：最近茶柱の立つお茶飲まず

▼課題「寒」 互選

少子化で増える寒村打つ手なし 林 もも子

ウクライナ思えば我慢この寒さ 山本 義彦

ふところの寒さ身にしむ物価高 福沢 勝美

▼自由吟 山本義彦 選

自信過剰秘書官の舌滑り出す 小澤 凛

お互いを杖と頼んで老二人 久保ひろし

福は内治安悪化の詐欺は外 市沢 照子

軸吟：若者をスマホが誘う闇世界

～シリーズ～ 豊丘の自然

No.230

コガモ（ガンカモ科）



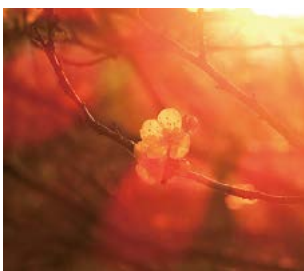
二月十日の大雪には驚いたが十六日は二十四節気の「雨水」だった。また、咲き始めたマンサクや巢材運びをするハシボソガラス、冬のナワバリを解いたモズのペアから春を感じる。だが、トンボとチョウは見えていない。こちらは、三月六日の「啓蟄」を待たねばならないか。さて、今月の主役は冬鳥のコガモだが、気になる事があるので、その事を。

十八年も前になるが、コラム22で七十五種、八十種の冬の鳥を紹介していた。ところが、今年は四十三種止まり。いったいこのちがいは何か。自然界に異変が起きているのなら、くやしいが認めよう。そこで、大原先生に助けを求めたところ七十種とこのよかったです。へんな理由を付けて「減少」にふれなくて。以前書いた「事実」は真実の敵である」の具体例になってしまつたところだった。

前号にまちがいがありました。「日本昆虫大図鑑」(一九五三)ではなく(一九三五)でした。訂正します。(山田 拓)



花数を多く入れすぎるとの花を見せたいのが薄れてきますから、なるべく入れる花数を少なくすることをお勧めします。花は花弁が非常に薄いものです。また、淡い色がよく光を使ひこなしてこそ可憐な花の価値が生まれるものです。なるべく光の位置(太陽)を逆方向から狙うことで透過



花咲く春の中で日本人が最も好む花として桜があります。コンデジでの桜撮影は限られてきますが、どのようなフレーミング(切り取り)が適しているのかを見ていきましょう。

●コンデジは小さなカメラです。レンズにも精度の問題がついてまわります。遠くの景色は苦手なレンズが多く、目の前の被写体はそれなりに難難に写してくれ



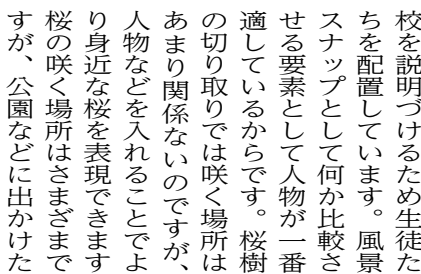
と桜の分量を少なく、風景の一部として見せることで春先という印象は成功して



フォトマスター級 宮下正弘



花を三分の二か人物を多めかは何を撮りたいのかを考へることです。さらにもつ



きます。スナップを近場で撮影できるなら広角側が適します。遠くに咲いている桜の大樹を狙うなら、いっぱいまで望遠側に設定して引き寄せてみることです。この時の絞り数字はなるべく大きな数字(絞り込むこと)で、風景を圧縮して一

デンソー スポーツ教室 3月2日

株式会社デンソーと豊丘村が主催し、豊丘村体育協会と、とよおか総合型地域スポーツクラブの協力で開催したスポーツ教室が豊丘中学校体育館で行われた。このスポーツ教室は、今年度豊丘村が、株式会社デンソーが開発した地域情報配信システムライブビジョン「とよおか防災行政ナビ」を導入したことを契機として開催されたもの。株

式会社デンソーは複数の競技で実業団チームを有しており、今回はバスケットボールとバレーボールのOB・OG選手が講師として指導に当たった。当日は、午前を小学生の部、午後を中学生の部とし、体協所属のミニバスケットボール教室、総合型クラブの小学生バレー、豊丘中学校の男子バスケットボール部、女子バレーボール部が参加した。



指導を受けた児童・生徒たちは、普段以上の集中力で講師の話聞き、普段とは異なるトレーニング方法・技術指導を受けて、とても有意義であったとの感想が多く聞かれた。また、地域

の指導者の方にとってもプロの指導方法を間近で見る機会となり、大いに参考になったのではないかと。(教育委員会事務局 松村幸紀)

私のほっとするとよおか

たどる！ 辿る！ 北道観音

10



村内の石造文化財の調査が行われ、分布図が作製されました。石造物に関心を持たれた方も多いのではないのでしょうか。

北道観音は、河野と堀越を結ぶ山路に三十三体安置された観世音菩薩です。その北道観音を辿ってみました。七番と三十二番観音は見つかりませんでした。一番、二番、三番と確認しながら歩いて三十三番にたどり着きました。

山路は、昔農民が山から屋根板や薪、刈藁、夏草などを採ってくるために使った道でした。三十三体の観音は行き交う人々の安全を見守るとともに、道しるべでもありました。そんな昔に思いを馳せながら山路を辿るとなぜかほっとしてききました。また、タラノメやコシアブラを採ったり、シカの角を拾ったりと豊かさを感じました。

(中部三 市澤英利)

とよおか ふるさとの れしぴ 3月



春のお彼岸が過ぎると、よもぎの新芽が出てきます。よもぎは新芽だけをちぎって摘んで、くさもちを作ります。子どもの頃、よもぎの新芽を摘みに行き、くさもちを作ってもらいました。くさもち作りのお手伝いをしたことは今でも記憶に残っています。お子さんにとっても、良い思い出になると思います。

【郷土行事食】くさもち

【農業の行事】

【桃の摘蕾】



摘蕾